

I 一（１） 令和２年度 牟礼小学校 学校運営の方針

1 ねがい

飯綱山に抱かれ、自然豊かなこの地に育つ子どもたちに、

「自立して生きる力をもつ子ども」

「コミュニケーション力と創造力のある子ども」

「地域社会の発展を担う子ども」

に育ってほしいという飯綱町全体の願い（目指す子どもの姿）のもと、教育理念を共有する飯綱町立「三水小学校」「牟礼小学校」が平成30年（2018年）4月に開校した。

飯綱町の統合以前の各小学校では、これまでも「知・徳・体」が調和した子どもの育成を目指し、「自立」「共存」「創造」等をキーワードに、教育活動をすすめてきた経緯がある。

理念を共有する統合校では、家庭や地域（おらほの学校応援団）と連携し、子どもたちが新しい環境のもとで、仲間を思いやり協力しながら学び合うことによって、友情を育み、成就感・自尊感情を高めながら、「明日もまた来たい、学習が楽しいと思う学校」づくりを目指したい。

また、子どもも教職員も互いに切磋琢磨しながら、「共に学び合い、力を高め合う学校」を目指したい。

2 学校教育目標

笑顔かがやく いいづなっ子

【自ら立つ子】 【共に育つ子】 【明日を拓く子】

3 重点

【明日も楽しみになる学校をつくろう】

ひびき合う心	健やかな体	豊かな学び
○だれにでも気持ちよくあいさつをしたり、相手の気持ちを考えた行動をしたりしよう	○運動に興味を持ち、自ら進んで楽しみながら心と体を鍛えよう	○主体的、対話的で深い学びを通して、力を合わせて追究するおもしろさを味わおう
○たてわり活動を通して、学級や学年の枠を越えたよき仲間づくりをしよう	○よりよい生活リズムを保ち、心身の健康に関心をもって、生活習慣づくりに取り組もう	○学びを振り返ったり、捉え直したりしながら、ついた力に自信をもち、次への学習に意欲をもって取り組もう
○地域や他校・保育園との交流活動やいいづなっ子学習を通して、郷土のよさに親しまおう	○「食と農」の学習を通して、作物を育てる喜びや、食に対する感謝の心をもとう	○繰り返して学習に取り組み、基礎と基本をしっかりと身につけよう

☆フィードバック

- 「学校が楽しい」と思う児童、「（お子さんが）登校を楽しみにしている」と思う保護者が80%以上になることを目指す
- 「児童一人一人のよい点や可能性を見つけ認めることができた」と評価する教職員が、80%以上になることを目指す

4 学校長の願い

開校2年目の昨年度12月の自己評価では、90%の児童が「学校に行くのが楽しい」と答えている。学校教育目標「笑顔輝くいいづなっ子」、重点目標「明日も楽しみになる学校をつくろう」がかなり達成できていると評価でき、これまでの取り組みに感謝したい。

新学習指導要領の完全実施を迎えた今年度は、「楽しみ」の中身が問われると考える。「友達と遊べて楽しい」「活動ができて楽しい」という楽しさから、「自分の力が高まったから楽しい」「友達や先生と学び合い、高め合うことができている」という、**質の高い楽しさ**となることを求めている。あと10%の児童も「楽しい」と答えられるようにするためにも、楽しさの中身を考え、教職員全体で共有し合っていきたい。

新学習指導要領では、予測不能な未来を担っていく子どもたちが、社会に出ても学校で学んだことを生かすことができるよう、「実際の社会や生活で生きて働く〔知識及び技能〕、未知の状況にも対応できる〔思考力、判断力、表現力など〕、学んだことを人生や社会に生かそうとする〔学びに向かう力、人間性など〕」の3つの力をバランスよく育むことが求められているが、そのためには、子ども自らが、「将来なりたい自分の姿を思い浮かべ、必要感をもって学ぶこと」と「ついた力を実感し、その達成感、満足感を原動力に『もっとできるようになりたい』と求めて学ぶこと」が肝要だと考える。

「将来なりたい自分の姿を思い浮かべ、必要感をもって学ぶ」ためには、「**キャリア教育**」に力を入れたい。今年度より、全国一斉に「キャリアパスポート」が導入され、小・中・高と引き継ぐこととなる。よい機会と捉え、全教育活動を、キャリア教育の視点をもって取り組みたい。

「ついた力を実感し、その達成感、満足感を原動力に『もっとできるようになりたい』と求めて学ぶ」ためには、「**振り返り**」に力を入れたい。学習や活動を何となく始め、やりっぱなしで終わるのではなく、めあてや目標をしっかりと取り組み、その視点で学びを自分自身で振り返らなければ、ついた力は自覚できない。教師には、そのための手立てを考え、視点をもって子どもの学びを見取り、そのよさを子どもたちに返すことが求められる。同僚性を発揮し、教師力を高めるための研究や研修を重ねる努力をしていきたい。さらに、多様な子どもたちのよさを返せるようにするには、多くの目を見て、多くの人の価値観で捉える必要がある。そのために、**学年の合同授業**や、**一部教科担任制**にも積極的に取り組みたい。学年会・連学年会を大切に、チームとなって指導・支援に向かうことを期待する。

子どもたちが意欲をもち、主体的に学ぶには、学習や活動に必要な感があることも欠くことができない。そのためには、中核となる活動を据え、教科や活動をつなげてカリキュラムを設定する「**カリキュラム・マネジメント**」が有効である。これまでも、地域の自然や人とのつながりを活かした学習・活動が積み重ねられてきている。それをより充実させ、牟礼小学校独自のカリキュラムを創り上げていきたい。

5 重点の具体（明日も楽しみになる学校にするために）

<ひびき合う心>

- ◇あいさつ 他者理解（人が人を人として認める）の一步として、「自分から」「誰にでも」「大きな声で」あいさつをすることの習慣化を図る。
- ◇たてわり活動 尊重し合える関係づくりを目指し、学習・生活や清掃活動、児童会活動等で異年齢交流を行う。それにより、同学年だけでなく、幅広いコミュニケーションを図る。
- ◇交流活動 自己の学びを表現し、他者から学ぶことによって、自尊感情を高め、他者理解を深めるために、地域の方や他校の友だちと交流し、学び合う。加えて地域を愛する心情も高める。
- ◇いいつなっ子学習 ふるさとを知り学ぶ中で、そのよさを感じ、愛着と誇りがもてる子どもたちの育成を図る。そして一人一人の人権についての理解を深め、更に国際理解を深める学びを推進する。

<健やかな体>

- ◇心と体を鍛える スクールバスの運行に伴い、体力低下も懸念される。健全な心と体を育てるために、体育の時間や朝の活動の時間の中で、運動に親しみながら楽しく体づくりができるようにしていく。さらに日課の中に体づくり運動の時間を組み入れ、継続化を図る。また家庭と共に体づくりを進めるために、日常的な取組を目指す。
- ◇生活習慣づくり よりよい生活リズムを保ち、心身の健康に関心をもって、家庭と連携しながら生活習慣の安定化を図る。
- ◇食と農を学ぶ 子どもたちの元気な生活や学びを支えるために、「食」と「農」の大切さを学ぶ活動を展開する。栽培活動、郷土の料理体験等を探り入れたり、「お弁当の日」を設けたりする。

<豊かな学び>

- ◇主体的、対話的で深い学び 統合校の教育として目指す子どもの姿として、「自立して生きる力」「コミュニケーション力と創造力」「地域社会の発展を担う力」が期待されている。これらを伸ばすために、知識や理解の獲得にとどまらず、思考力・表現力・技能の育ちを求め、子どもたちが友だちと共に、主体的・対話的な学びを常に意識し、能動的な学習の充実を図る。
- ◇振り返り 子どもたちが学びを自覚できる観点を示し、次の活動につながる振り返りを心がける。そのために、つける力を常に意識し、子どもの内面を捉える「目」を養う。
- ◇繰り返し学習 授業や行事等での学びが定着するように、繰り返し学習に取り組み、確実に基礎・基本が身につくように指導する。